



平成 21 年 1 月 16 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 千 趣 会  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 行 待 裕 弘  
 (コード番号 8165 東証・大証 第一部)  
 問 合 せ 先 取 締 役 常 務 執 行 役 員  
 総 務 本 部 長 藤 由 和 秀  
 (TEL 06-6881-3100)

### 業績予想の修正及び特別損失の計上並びに平成 21 年度業績予想に関するお知らせ

最近の業績の動向及び特別損失の計上等を踏まえ、平成 20 年 7 月 31 日の中間決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせするとともに、平成 21 年度業績予想が確定いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 20 年 12 月期連結通期業績予想数値の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	160,000	3,000	2,600	900
今 回 修 正 予 想 ( B )	158,285	2,326	△ 742	△ 6,754
増 減 額 ( B - A )	△ 1,714	△ 673	△ 3,342	△ 7,654
増 減 率 ( % )	△ 1.1	△ 22.4	—	—
前 期 (平成 19 年 12 月 期) 実 績	156,792	5,291	5,626	2,494

#### 2. 平成 20 年 12 月期通期業績予想数値の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	152,000	2,900	3,200	1,800
今 回 修 正 予 想 ( B )	150,729	2,267	△ 42	△ 6,637
増 減 額 ( B - A )	△ 1,270	△ 632	△ 3,242	△ 8,437
増 減 率 ( % )	△ 0.8	△ 21.8	—	—
前 期 (平成 19 年 12 月 期) 実 績	152,367	4,611	5,364	2,898

#### 3. 平成 21 年 12 月期通期業績予想 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
連 結 通 期 業 績 予 想	162,500	3,200	3,400	2,750
単 体 通 期 業 績 予 想	150,000	3,000	3,600	3,150

#### 4. 修正の理由

(連結)

売上高につきましては、第3四半期まで順調に計画を上回るペースで推移しておりましたが、10月からは、金融危機に端を発した実体経済の悪化による個人消費の冷え込みを受け、売上高は計画を下回りましたが、前年比では若干上回りました。結果、前回発表予想と比べまして約17億円減少し約1,582億円の見込みです。同じく営業利益も売上減に伴い前回発表予想から約6億円減少し約23億円の見込みです。

経常損益につきましては、今回当社の長期予約しておりました為替レートが、予測し得ない米国発金融危機によるドルが対円で急落したことにより為替差損が約20億円となりました。また世界同時株安等により複合金融商品評価損が約13億円発生した結果、前回発表予想より約33億円減少し約7億円の経常損失の見込みです。

当期純損益につきましては、固定資産売却及び除却損約7億円、大幅な株式相場の下落に伴う投資有価証券評価損約5億円及びヘッジ会計終了損約46億円等を計上したことにより結果、前回発表予想より約76億円減少し約67億円の当期純損失の見込みです。

当社グループの通販事業におきまして商品輸入決済時の為替変動リスクの回避のため米ドルの長期為替予約等を行っており、期末の為替レート等により決定される時価評価差額を為替差損益として営業外損益に計上しております。なお、今回一部のデリバティブがヘッジ会計の要件を満たさなくなったため、ヘッジ会計を終了し時価会計を適用いたしました。その結果、特別損失としてヘッジ会計終了損を約46億円計上いたしました。これにより次年度以降は、現在より大幅な円高に変動しない限り為替差損は発生しない見込みです。また、特別損失として計上したデリバティブ契約のうち、リスクの高い契約については既に解約しております。今回の解約により為替変動による今後の当社グループの連結損益に与える影響は軽微の見込みです。

(個別)

個別業績につきましても連結とほぼ同様であります。

#### 5. 平成21年度当初予想について

企業業績の悪化や雇用の不安による消費の更なる冷え込みにより、小売業界は極めて厳しい状況下にあります。2009年度当初予想につきましては、売上高は単体につきましては横ばいですが、連結においては㈱ディアーズ・ブレインが年間を通じて貢献することにより前年対比約2.7%増の1,625億円、営業利益は総原価率の低減等により32億円、経常利益は34億円、当期純利益は、法人税負担が減少することにより27.5億円の見込みです。当期の当社方針としましては、堅実な利益確保を目指してまいります。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上